

「人」への投資を強化

前澤工業 松原社長が新年の決意新た

前澤工業の松原正社長は5日、川口市の本社で年始のあいさつを行った。

松原社長は昨年を振り返り、短期間で世界的に広まった新型コロナウィルスに翻弄された1年

だったとし「政府は矢継ぎ早に補正予算を編成して企業の資金繰りや家計

の所得支援を講じる施策を打つてどこに危機を乗り越えようとしている。企業も在宅勤務・テレワークを進めたが、そのインフラが立ち遅れて



松原社長



新型コロナ対策をとって年始のあいさつを行った

いる現実にも直面した。生産性を低下させないよう、行政企業ともに様々な取り組みを進めてきたが、いずれもデジタル化への対応の遅れが顕在化した形となった。これからはさらに機器やソフトウェアなどを整備・改善して、業務の効率化を

図っていくかなければならず、仕事のやり方を変えていくなかで、人事評価についても見直していく必要があると感じた」と語った。

続けて、「人口減少が大きな課題となっているなか、企業が持続的に発展していくには生産性を向上していかなければならず、そのためデジタル化を進めることももちろん重要だが、あくまで原点となるのはそこで働く『人』であり、スキルアップを図ることが極めて

重要となる」と語り、今年には『人』への投資を強化して、未来を語れる社員を増やしていく、1年にしたい」として、「主体的に学んでいこう、周りの情報を活用していこう、創造的なコミュニケーション能力を身に付けていこう、そして全体を考えながら答えを出していこう、という行動の基軸が当たり前にできるような人材育成を行いたい」と目指す姿を話した。

さらに、今年5月で現在の中期3カ年経営計画が終了し、6月には新たな計画がスタートすることと触れ、「皆さん一人ひとりの努力が成果として表れ、業績は上向いている。前澤グループはパルプ事業と環境事業、メンテナンス事業の3つを柱としてストック市場に挑戦しているが、この方向性は間違っていないと

思っており、チャレンジを続けていく人材をしっかりと育てていきたい」と話した。

最後に、「今年1年、社員一人ひとりが、安全第一を念頭に良い製品・施工をお客様に届けるという心を持ち、一致団結を」と呼びかけた。